

お客様とともに

▶ お客様満足度向上の取り組み

品質基本方針

K Y Bでは、「品質経営」を企業活動の根幹に据えたことを受け、「品質の社会的責任に対する意識改革への取り組み、Bad News 1st 定着による風通しの良い企業風土づくり」を品質基本方針としました。何か異常が発生したら、何でも迅速に報告することで、問題解決に真摯に当たり、お客様・社会にご満足いただける品質のモノづくりやサービスをご提供すべく努力しています。



2018年度のバッジ

品質保証体制

「製品品質」と「サービスの質」とともに、「仕事のプロセスの質」を重要視したISO9001規格に準拠した品質保証体制を構築し運用しています。また、日々その質の向上に努めています。

製品を生産する工法や工程の開発を含め、開発設計段階での品質は製品の市場品質を決定付けます。さらに、生産現場での作業手順など決め事の完成度と運用の充実が、工程内不良を始めとしたモノづくりでの品質ロス削減につながります。

K Y Bでは「三段階評価」と呼ぶ製品・技術・工法などの開発・量産手法を運用し、製品の企画段階から量産出荷後の不具合改善や変更管理までを含めた製品ライフサイクル全体で高品質化を図る努力をしています。また、生産拠点では拠点長・工場長のリーダシップの下で品質向上諸施策が展開され、三段階評価の的確な運用を進めています。

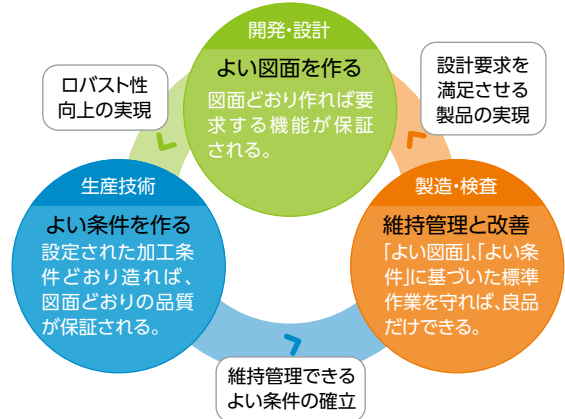
三段階評価による製品・技術開発と品質安全宣言

ステップ	三段階の狙い	品質保証ステップ
先行・モデル開発 DR0評価会	可能性の証明 (開発品質の説明・評価)	開発品質
受注開発 DR1評価会	量産性の証明 (開発品質の説明・評価)	立ち上がり品質
量産開発・生産準備 DR2評価会	応用性の証明・シリーズ化 (立ち上がり品質の実証・評価)	量産品質



品質安全宣言
本生産を開始する前に量産製品としての品質が確実に作り込めていることを明らかにする

K Y Bの目指す姿：品質未然防止のサイクル



TOPICS

改善専任チームの活動

弊社グループ各拠点では品質課題を方針に取り上げ継続的に改善活動を実施しています。拠点長がリーダーシップを発揮し、お客様・お取引先などステークホルダの皆様にご満足頂ける品質状況を早急に作り上げていきます。改善活動で一定の成果を上をあげられない拠点は、拠点長が品質改善専任チームを組織して、改善に割く時間や予算を確保し、スピードアップを図っています。



品質専任チーム活動の一コマ (インドネシア工場での事例)

サプライヤー表彰一覧表

日付	拠点名	名称	内容	お客様
2017.4	HC事業本部	クボタサプライヤー技能コンクール	溶接部門で金賞受賞	株式会社クボタ
2017.4	HC事業本部	オールクボタ技能競技会	サプライヤー26名中6位に入賞	株式会社クボタ
2017.5	KIMZ	ベストパフォーマンス賞	品質・納期でノートラブル達成	ジャトコ広州社
2017.5	KAC	サプライヤー・エクセレンスアワード2016	品質・納期で優れた結果を達成	Yamaha Mortor Manufacturing Corporation of America
2017.5	株式会社タカコ	優良事業場表彰	安全管理および災害防止を推進	社団法人 滋賀県防火保安協会
2017.7	株式会社タカコ	サプライヤー表彰	品質・納期でノートラブル達成	ポッシュグループ
2017.7	AC事業本部	感謝状受賞	紹介販売において協力、貢献	トヨタホーム株式会社
2017.7	AC事業本部	リージョナル品質賞	品質不良ゼロを達成	ジャトコ株式会社
2017.9	KYB-YS株式会社	品質優秀賞受賞	5年連続品質不具合ゼロを達成	愛知機会工業株式会社
2017.9	KYBT	サプライヤー・オリティ・エクセレンスアワード2016	品質クレームゼロを達成	ゼネラルモーターズタイランド株式会社
2017.11	KIMZ	サプライヤー表彰	品質・コスト・納期で満点を獲得	Caterpillar Inc
2017.11	KMSB	優秀サプライヤー賞	品質・納期、価格協力に貢献	ホンリョン・ヤマハ・モーター株式会社

「オールクボタ技能競技会」への出場

岐阜南工場製造部第二製造課の奥村靖弘さんが、2017年4月に、株式会社クボタ様主催『クボタサプライヤー技能コンクール』の溶接部門にて、金賞を受賞しました。この競技会は株式会社クボタ様が、サプライヤーとともに技能を向上させ、より良い製品をお客様に提供するため開催している競技会です。この大会で好成績を得たことで、株式会社クボタ様社内で行われる『オールクボタ技能競技会』に、唯一のサプライヤー代表として出場しました。世界中の拠点から出場した株式会社クボタ様の技能者の方々と相手に、競技者26名中6位に入賞し、製造現場で培ってきた技能をアピールすることが実感できました。さらなる技能向上を目指すことで、KYBのブランド力向上に努めていきたいと思っております。



課題の溶接部分



受賞した奥村靖弘さん（中央）

お客様への情報発信

展示会はお客様から直接ご意見を伺える貴重なコミュニケーションの場であると考えています。今後も各国の展示会に参加してまいります。

出展した展示会（一部）

展示会	主な出展
販路拡大商談会	部品・加工品KMV(ベトナム)
第42回食肉産業展	水圧機械、水圧システム
AUTOMECH BRAZIL	自動車用部品
人とくるまのテクノロジー展	通信・映像端末
パリエアーショー	電動ブレーキ、電動アクチュエータ
バンコクオートサロン	KYBショックアブソーバ
群馬パーツショー	ラリー出走車両
第41回プラントメンテナンスショー	機械設備のオイル分析
ひがしひろしま環境フェア2017 (P22詳細記事)	タウンビーパー
全日本エコドライブチャンピオンシップ	2017年度チャンピオン車両
中国オートサロン	KYBショックアブソーバ製品展示
中国国際農業機械展	農業機械向け油圧製品
オートメカニカ上海	市販用ショックアブソーバ
第5回鉄道技術展2017	鉄道車両用ブレーキ、サスペンション等
第3回 IoT/M2M展【秋】	通信端末新製品
EXCON2017	コンクリートミキサ車等
東京オートサロン2018	自動車機器等

2018 インタビュー・講演会一覧表

インタビューや講演会は直接お客様やメディアとコミュニケーションを取れる場であると考えています。今後も機会を捉え、参加してまいります。

インタビュー・講演会

展示会	主な出展
芙蓉懇談会機関誌「エフ」	中島社長インタビュー
東京新聞社	チェアスキー用製品開発取材
東京新聞社、サンケイスポーツ、NHK	鈴木猛史選手取材
KYB講演会	調達本部主催による取引先方針説明
原価企画講義	大学名誉教授による原価企画講義
第10回フルードパワー国際シンポジウム	ポスタープレゼンテーション
第47回取引先QCサークル大会	取引先133社が参加
KYB協力会社持株会	株主順位6位までの大株主が参加
第30回神奈川県品質管理セミナー	臼井特別相談役による品質経営講演
QCサークル神奈川地区大会	片山右京氏トークショー

お取引先様とともに

▶ パートナーシップの構築

調達基本方針

K Y Bは、企業のC S Rを果たし、社会に信頼される企業であり続けるよう活動しています。K Y Bがモノづくりを通じて継続的な事業発展を果たし、豊かな社会づくりに貢献していくために、お取引先様は商品づくりの大切なパートナーです。

以下にK Y Bの調達の基本的な考え方をご紹介致します。

調達の基本的な考え方

- | | |
|-----------------------|----------------|
| ① お取引先様と共存共栄を目指した調達活動 | ⑥ 納期対応 |
| ② 法令の遵守 | ⑦ 自然環境の保護 |
| ③ 品質第一 | ⑧ グローバル調達体制の構築 |
| ④ 安全衛生・人権・労働 | ⑨ 危機管理 |
| ⑤ 継続的原価低減活動 | ⑩ 機密情報管理 |
| | ⑪ 腐敗防止 |

詳しくはwebサイトをご覧ください。

<http://www.kyb.co.jp/company/csr.html>

2017年度調達方針説明会開催

K Y Bとお取引先様との連携強化のため、2017年度も「K Y B 調達方針説明会」(パレスホテル東京：東京都千代田区)を開催致しました。当日は、前年度を10社上回る224社のお取引先様をお迎えし、会社方針、調達方針および品質方針を説明致しました。またQ C Dにおいて効果を上げられた優良なお取引先様に対する表彰を行った後、お取引先様を囲んでの交流懇親会も併せて開催しました。



紛争鉱物(コンフリクト・ミネラル)への対応

アフリカのコンゴ民主共和国および周辺国の紛争地域において、同地区から産出される鉱物4種(タンタル・タ

ングステン・すず・金)を紛争鉱物と定義し、採掘される鉱物資源を購入・使用することで武装勢力の資金源となり、紛争地域での人権侵害等に寄与していないことなどを確認することが求められています。

K Y Bグループ企業は、C S Rの視点や米国金融規制改革法(ドット・フランク法)の趣旨に基づいて会社としてのガイドラインを作成しており、お客様やお取引先様と連携し、不正に採掘された紛争鉱物の不使用に向けた取り組みを行っています。

取引先Q Cサークル大会開催による改善活動活性化

お取引先様の改善活動活性化を目的として、取引先Q Cサークル大会を毎年開催しています。2017年で47回目の大会となりました。今回は初めての東京開催で、133社173名のお取引先様にお集まり頂き、応募されました31社の中から優良な6社の改善事例発表を行いました。最優秀賞(金賞)には4年連続で碧海工機(株)様が選ばれました。

B C P (事業継続計画) 活動状況調査について

今後、発生が懸念されております三連動地震(東海・東南海・南海)に備え、調達方針説明会、および各工場の生産動向説明会においてB C P対応に関する説明をしました。また、お取引先様のB C P活動状況を把握することは重要であるとの考えから、昨年に引き続き、お取引先様に対し、全7分類(1.想定リスク対策、2.身の安全確保・緊急避難、3.災害対策本部、4.安否確認、5.物的被害確認、6.帰宅指示・帰宅困難者、7.復旧対策本部)100項目のアンケート調査を実施し、自己評価をして頂きました。自社の取り組み状況を把握して頂くとともに、実施できていない項目について、今後、計画的に活動して頂くようお願いしました。

VOICE

取引先Q Cサークル大会 金賞を受けて - 碧海工機株式会社様

今回の発表サークルは、出来高を高い水準で安定させることを目指し、P P H向上、原価低減をテーマに取り組みました。改善活動を進めていくとメンバー全員から改善案が次々に出てきたことが良かった点です。マシンタイム、ハンドタイムの大幅な短縮に成功。目標の達成ができ、また休出ゼロになり大きな成果を上げることができました。壁にぶち当たりそれを乗り越えることに達成感を得られ、日々の活動に力が入っていました。今後もメンバー全員のレベルアップに努め、新しいことに取り組み、お客様満足度をより向上させていきます。



発表者 井上 篤史 様 (真ん中)
発表アシスタント 田口 大介 様 (右)

地域社会とともに

社会支援活動

芝地区クリーンキャンペーン

本社のある芝地区においてクリーンキャンペーン（路上喫煙ゼロのまち！）が開催され、弊社有志社員が近隣企業からの参加者とともに路上清掃に取り組みました。厳しい寒さの中での活動となりましたが、参加者全員で力を合わせて街をきれいにできたことに達成感を覚えました。今後も社員参加による地域貢献を継続・推進してまいります。



クリーンアップ活動

赤い羽根共同募金運動への寄附

都庁において、東京都社会福祉大会が開催され、約500名の参列の下、社会福祉に関連する表彰状・感謝状が授与されました。この大会において、KYBは過去8年間の継続的な寄附に対して「東京都共同募金会会長表彰」を受賞しました。



東京都共同募金会会長表彰状

株主様向け工場見学会開催

昨年に引き続き、2018年3月、岐阜北工場にて株主様向け工場見学会を開催いたしました。当日は約30名の株主様にご参加頂き、工場見学、安全体感道場、展示エリア等をご覧頂きました。見学終了後、質疑応答等を通じて、株主様から貴重なご意見を多数頂きました。情報の積極的な開示は開かれた経営につながり、皆様への安心感にもつながるものと考えています。今後も見学会を継続開催し、株主の皆様と当社との双方向の対話を通じ、ご理解を深めて頂くよう努めてまいります。



工場見学会写真

「SC相模原」オフィシャルスポンサー

地域の活性化やスポーツの振興のため、相模工場のある神奈川県相模原市に本拠地を置くJ3リーグ所属のサッカーチーム「SC相模原」のオフィシャルスポンサーとなっています。2012年よりホーム公式戦1試合を「KYBスペシャルサポートマッチ」として開催し、チームを応援しています。

今後もKYB従業員一同、「SC相模原」を応援していくとともに、地域と一体となった活動を展開してまいります。



従業員の子どもたちによるエスコートキッズ KYBスペシャルサポートマッチ試合前集合写真

近隣の総合医療機関との合同防災訓練

岐阜南工場は、近隣にある独立行政法人 地域医療機能推進機構 可児とうのう病院様と「災害活動応援協定」を締結しており、毎年『合同防災訓練』に参加しています。この訓練は、大規模地震発生を想定し、職員および地域住民、近隣企業が連携して、緊急時の対応を行うことを目的として可児とうのう病院様が実施しています。2017年も、岐阜南工場本部消防隊がこの訓練に参加し、イーバックチェア（階段けが人搬送避難車）による避難訓練、放水訓練を実施し、大規模地震発生時の連携体制を確認しました。このような活動を通じ、弊社の防災意識の向上を図るとともに、地域社会に貢献していきたいと考えています。

日本障害者スキー連盟アルペンスキーナショナルチームを継続支援

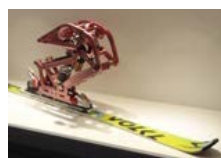
弊社は特定非営利活動法人日本障害者スキー連盟アルペンスキーナショナルチームのオフィシャルスポンサーおよびオフィシャルサプライヤーとして活動しています。チーム合宿や各国で行われるワールドカップなどにおいて日本チームのチェアスキー用ショックアブソーバの技術サポートおよび製品開発を行っています。また特定強化選手である弊社社員の鈴木猛史選手は、各種レースへの参戦や練習に励むとともに、メディア対応や講演活動を積極的に行っています。KYBグループは、今後も選手と一体となって、より良い製品の改良に努めるとともに、社会貢献の一環として、スポーツ振興に積極的に取り組んでまいります。



KYB所属の鈴木選手



チェアスキー用ショックアブソーバ



チェアスキー

社会支援活動

第45回東京モーターショー2017に出展

第45回東京モーターショー2017が開催されました。「Feel the Passion, Feel the Future, Feel with KYB」をコンセプトに、モータースポーツにかける情熱(Passion)、時代に求められる先端技術の紹介(Future)、そして未来を担う学生や子供たちに日々の暮らしを支えているKYB製品を知って貰う(with KYB)をテーマに、楽しんでいただける展示内容としました。EPS協調制御システムの開発紹介、車両姿勢を制御するショックアブソーバなどの最新製品展示を始め、ホログラムによるKYB技術の紹介、EPS体感機などを展示しました。片山右京氏によるトークショーも実施し、多くのメディアから注目されました。前回と比べKYBブースへの来場者数も増加し、KYBブランドをPRすることができました。



KYBブース



片山右京氏によるトークショー

「ひがしひろしま環境フェア2017」に出展

東広島市主催の「ひがしひろしま環境フェア2017」へ緑のリサイクルに貢献する『タウンビーバーF』を出展しました。今年で3年目の出展です。剪定した枝をチップにする実演を行い、多くの来場者にご好評を頂き、2017年11月に東広島市へ納入されました。今後も、自然環境を守り、緑豊かな街を次世代に引き継いでいくためにも、様々な地域へタウンビーバーをPRしてまいります。



実演のようす①

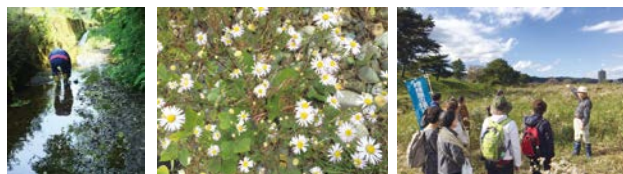


実演のようす②

相模原の環境をよくする会

「相模原の環境をよくする会」は、公害の未然防止と豊かな自然を守り快適な環境をつくるため、毎年四季を通じて「野鳥観察、夏休み環境教室、河川生物調査、自然観察」等を実施して環境の変化を監視しています。当会の会員として当社は自然保護活動に参加しており、2017年度は「河川生物調査」として市内河川状況の変化や河川生物等の種類

の調査参加と、「絶滅危惧種カワラノギクと河原の植物観察会」として育成地の河原状態維持活動に参加しました。



河川生物調査のようす 絶滅危惧種カワラノギクと河原の植物観察会

児童養護施設を訪問&植樹で緑化運動 KMSB(マレーシア)会

KMSB(マレーシア)が、地域貢献活動の一環として、ラマダン(断食)期間中に児童養護施設を訪問しました。普段、買い物をする機会が少ない子供たち43名とショッピングセンターへ出掛け、服などを買ったり、夜はレストランとともに夕食を楽しみました。



児童養護施設の子供たちとともに

また、地域の緑化推進活動の一環として、マンゴーやバナナなどの地元の果樹を工場フェンス外側に植樹しました。KMSBの従業員ボランティア37名が植樹に参加しました。



植樹のようす

踏切事故防止キャンペーン

岐阜南工場は、名古屋鉄道広見線の可児川駅に隣接し、正門入り口前が踏切という立地になっています。また、この踏切は、地元の可児市立土田小学校児童の通学路にもなっています。4月6日、同小学校の入学式・始業式に合わせて、「踏切事故をなくそう」を掲げ、「踏切事故防止キャンペーン」を実施しました。この活動では、岐阜南工場幹部従業員が、名古屋鉄道株式会社様と可児警察署様の協力の下、あいさつを行い、児童および従業員の踏切横断時の安全確保を呼び掛けました。この活動は可児市からも評価され、可児市広報紙に「子ども見守り活動」として掲載頂きました。来年以降もこの活動を継続して実施してまいります。



名古屋鉄道(株)職員様と可児警察署員様による啓蒙活動

私のあしながおじさんプロジェクトへの協賛

弊社は、企業メセナの一環として、可児市文化創造センターが主催する「私のあしながおじさんプロジェクト」に協賛しています。このプロジェクトは当センターで開催されるクラシックやジャズのコンサート、演劇、寄席などへ地域の子供たちを招待するものです。初めて触れた舞台芸術などに、喜びの手紙が多く寄せられています。



チケット贈呈式の様子



あしながおじさんのイラスト

可児市土田公民館主催による岐阜北工場見学会開催

「KYBの歴史について学ぶ」「地域とのつながり強化」をテーマに、土田公民館主催による岐阜北工場見学会が開催され25名が来社されました。冒頭に可児市職員より、KYBが戦時中に可児市で事業を始めた経緯が説明されました。工場見学後は活発な質疑応答が行われました。従業員が使用している食堂で昼食を取って頂いて見学会を終了しました。今後も地域とのつながりを大切にしていまいます。



会社概要説明風景



地元の小学校を支援 KMV(ベトナム)

KMV(ベトナム)が、創立15周年記念行事の一環として、工場の周辺にある小学校へロッカーや本棚、ノートや鉛筆などの学習用品を寄贈しました。子供たちから多くの喜びの声をもらい、小学校からは感謝の盾を頂きました。



学習用品を寄贈した小学生とともに

第11回産業フェアin可児2017 出展

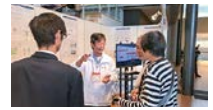
「第11回産業フェアin可児」が開催されました。台風接近による悪天候にもかかわらず16,000名余の方が来場し、賑わいました。このフェアは、出展企業が製品の紹介や商談・物販等を行うことで、地域経済を活性化させることを目的として開催されています。来場された方々にとっても地元企業を知る良い機会となっています。今後も産業フェアを通じ地域の方々との交流を深めてまいります。



KYB展示ブース I



KYB展示ブース II



KYB展示ブース様子

「可児市環境フェスタ」への参加

今年度も「第18回 可児市環境フェスタ」へ参加しました。このフェスタは、市民・事業者・行政の環境に関する活動を紹介し、環境への意識を高め、環境基本計画の具体化を図るため開催するもので、30に及ぶグループ・団体・事業所がそれぞれの「環境に対する企画内容」でブースを構え出展し、1,700名に及ぶ来場者と共に環境に対し考える体験をしました。「KYBグループは、人々の暮らしを安全・快適にする技術や製品を提供し、社会に貢献しています。」を掲げ、KYBの製品であるタウンピーパー(剪定枝の粉砕処理車)を会場へ持ち込み、トラック2.5t分の「桜・檜」の剪定枝をチップ化し、来場者の方々に配布しました。



KYBブース全景



剪定枝の粉砕作業

近隣企業とともに地元小学校を支援 KMS I(インド)

KMS I(インド)と近隣企業各社が共同で地元小学校への支援を行いました。児童一人ひとりに傘・雨具・水筒・弁当箱をプレゼントするとともに、記念植樹や医療診断のサポートを行いました。地元の子どもたちが安心して楽しく学校で学べるように支援し、地域に貢献することは、企業にとって大切な社会的責任です。今後も近隣企業とともに地域貢献活動を継続してまいります。



地元小学校の児童たち



医療診断の様子

従業員とともに

▶ 人財の活用と職場環境づくり

基本的な考え方

多様な人財を生かしてグループ力の最大化を図るため、「グローバル人材育成・グローバルプラットフォームの構築・多様性(ダイバーシティ)の推進」について重点的に取り組んでいます。

具体的には「プロフェッショナル人材の育成・グループ全体での価値観の共有・モノづくり人材の育成強化・ワークライフバランスの推進・こころと体の健康管理」などのテーマ検討を進め、働きやすい職場環境づくりを進めています。

「従業員意識調査」の実施

2018年1月、初の試みとして、全従業員を対象に、「従業員意識調査」を実施しました。

従業員が普段感じている、職場風土・労働環境・経営方針等についての「ホンネ」を調査するため、回答は無記名方式とし、外部機関にて集計・分析を行いました。

今後、従業員一人ひとりがこれまで以上に生き生きと働くことができる環境づくりに、これらのデータを活用し、全社を挙げて取り組んでまいります。

女性労働力の更なる活躍推進を目指した活動

多様な人財が個性を生かして活躍し、新たな価値や競争力を生み出し続ける会社となるための一環として、女性労働力の更なる活躍推進により誰もが活躍できるより働きやすい環境を目指すため、女性活躍推進を展開しています。その取り組みとして

- ①「能力開発・意識改革の研修」
- ②「働きやすい組織風土の醸成」
- ③「育児休職者への支援」
- ④「多様な働き方の支援」

の4項目を柱としています。

2017年度も、女性の意識改革を目的とした「女性向けキャリア研修」や、その上司の意識を変える「女性部下を持つ上司研修」の継続実施、早く帰ろうキャンペーン(カエルキャンペーン)などを実施しました。

今後は女性活躍推進のみならず、ダイバーシティの視点で幅広く推進展開していきます。

在宅勤務の推進

働き方改革の一環として、育児・介護を行う社員の仕事と家庭の両立支援に重点を置いた、「在宅勤務」の推進に取り組んでいます。まずは2017年11月より本社・支店11名の社員が1年間の試験的運用を開始しています。これは通勤にかかる時間や労力の削減・有効活用にもつながります。現在、週2回の実施を上限に、在宅勤務を行っています。今後、制度の本格導入に向けて、利用者の声を元に、より使いやすい制度への改良および利用対象者の拡大を進めてまいります。

メンタルヘルスセミナー

組織の要である部長職を対象に「部長格メンタルヘルスセミナー」を開催しました。メンタルヘルス対策は個々の組織から不調者を出さない、活力ある組織作りにも寄与しています。セミナーでは「*ワーク・エンゲイジメントを高めた職場をつくるためには？」をテーマにグループディスカッションを行いました。

この研修を通じ、活力ある組織作り、元気なKYB従業員の増加に役立ててまいります。

*ワーク・エンゲイジメントとはやりがいや仕事に誇り、やりがいを持ち、生き生きとしている状態

KYB陸上部の活動

陸上部は、主に平日の夜や休日活動を行っています。部員の一人ひとりが、業務と両立しながら限られた時間の中で質を高めることにこだわりを持ち、日々練習やトレーニングに励んでいます。2017年9月、アスリートの国内頂上決戦である「第65回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会」に2名の選手が出演し、健闘しました。また、2017年12月、「第71回福岡国際マラソン選手権大会」に3名の選手が出演し、谷口選手が本大会連続出場記録を25年に更新しました。今後も、好成績が残せるよう練習に励み、他の部活動の活性化にもつなげてまいります。



福岡マラソン連続出場記録を25年に更新 谷口選手



全日本実業団陸上大会走り幅跳び 花井選手



全日本実業団陸上大会棒高跳び 築地選手

グローバル技術者研修

海外生産拠点のモノづくり力向上を目指して2006年からグローバル技術者研修を実施しています。本研修は、現地・現物で「対話方式の講義」「体感実習」「先進工場の見学」を柱に半月または1か月間行われます。基礎から応用までの技術を習得したのち、自拠点の改善案を作成し、帰国後はその実施に取り組んでもらいます。

2017年度は3コース（設備保全、めっき、K P S）について、11カ国15拠点から41名が受講しました。

今後も本研修を継続実施し、海外生産拠点のモノづくり力強化を推進します。



外観傷は発見が難しく、長年慢性の工程内不良となっていました。

この難題をカーボン紙への転写による特定技術を利用することにより解決しました。

転写がなくなるまで改善を続けた結果、諦めかけていた打痕傷は80%低減が進み、現在もゼロに向け活動を進めております。

K Y B グローバル生産会議

2017年度のグローバル生産・品質会議は、海外21拠点より53名が参加し、『安全・環境・品質・生産』に関わるテーマについて改善事例発表と熱心な質疑応答が行われました。

初日の改善発表会では、11拠点の中から、K Y B S E（スペイン）の「安全-5Sと構内物流の効率化」の発表テーマが金賞を受賞しました。

各生産拠点における『安全・環境・品質・生産』に関する情報と課題の共有化を図り、それぞれの機能レベルを向上させ、今後の発展に寄与してまいります。



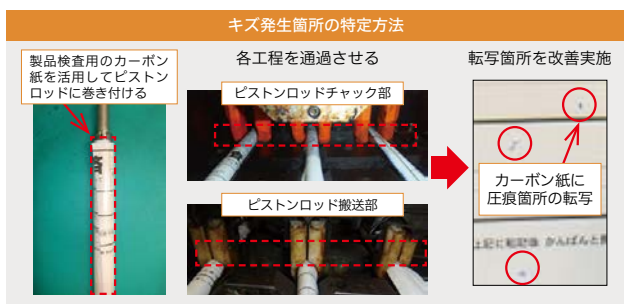
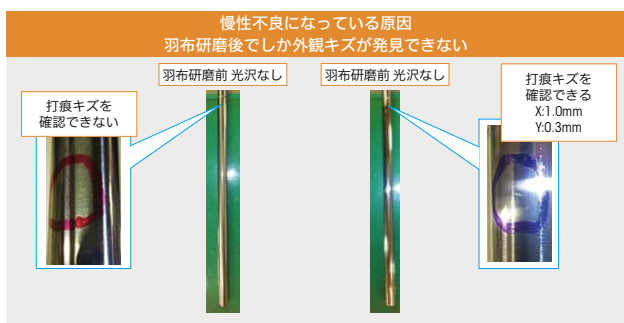
出席者全員で



改善事例発表で金賞を受賞したKYBSEのメンバーと中島社長（右）

簡単にできる打痕傷発生箇所の確認方法

ショックアブソーバの摺動部品であるピストンロッドは、品質要求が厳しく、微小な傷でも油漏れにつながります。そのために目視検査にて全数良否判別を行っています。



LT50活動(改善)事例

【改善前】ロッドネジ部のさび防止のためディッピング方式による防錆油塗布に垂れが発生し、油漏れに間違われるのを防ぐ為、製品と箱の拭き取り作業が発生。

【改善後】防錆油塗布工程でチャンバー内にて防錆油を霧状にし適量を吹き付けることで油の垂れを防止。合わせて適量化により防錆油の使用量低減、箱の掃除工数、拭き取りウエスの撤廃を実現した。



箱に油が垂れた状態



油塗布機



改善後の梱包状態

▶ 従業員コミュニケーション

第16回 K Y B 全社スポーツ・文化交流大会開催

16回目となる K Y B 全社スポーツ・文化交流大会が、相模地区で開催されました。合計1,047名が一堂に会し、競技数全10種目を行い、大変盛り上がりました。今回、特別イベントとして、K Y B がスポンサーとなっている「SC 相模原」とのフットサルエキシビジョンマッチや片山右京氏に参加頂きカートレースが行われました。スポーツ・文化の競技を通じて、K Y B グループの従業員が交流を深め仲間との絆を強めることができる、年に一度開催される貴重なイベントとなっています。



開会式の様子 (鏡開き)



特別イベント (片山右京氏とのカートレース)



特別イベント
(SC相模原とのフットサルエキシビジョンマッチ)

第10回 K Y B ロボットコンテスト開催

2017年10月21日に第10回「K Y B ロボットコンテスト」が相模工場で開催されました。K Y B グループから国内15チーム、海外9チームが競技にエントリーし、雨天にもかかわらずご来場頂いた大勢の観客の声援の中、白熱した試合が繰り広げられ第10回の記念大会にふさわしい盛り上がりを見せてくれました。

競技はトーナメント方式による玉入れ合戦。チームは、遠隔操作するロボットで自コートの数力所に置かれたバケツの中からボールを取り、相手コートに高さ違いで設置した幾つかのバスケットに投げ込み、その合計点を競いました。

K A C (アメリカ) が昨年12位の N h a n h N h a n h T V C (ベトナム) を退け、2年連続、通算4度目の優勝を果たしました。3位決定戦では、昨年準優勝の X O M O D O (インドネシア) が昨年10位の K M S B (マレーシア) に勝利し、海外勢の強さが光る大会になりました。アイデア賞は永華機械(台湾) が受賞したものの、日本勢も、技術賞をラポロボ(基盤技術研究所)、社長特別賞をカラクリシ

ステムマシナリー (K S M)、大会委員長特別賞を A C E S ☆ (A C 製品企画開発部 他) が受賞するなど健闘しました。

2018年度は岐阜東工場で開催する予定です。



優勝した K A C チームの競技の様相

被災地支援のためのマルシェ開催

宮城県東京事務所のご支援を頂き、本社にて今回で3回目となる東日本大震災の復興支援マルシェ(物産即売会)を開催致しました。前回までとは異なり、東京地区以外の K Y B 各工場の従業員も参加し、全社的なイベントになりました。

東日本大震災から7年が経過しましたが、今後も震災の記憶を風化させることなく復興支援を推進してまいります。



復興支援マルシェの様子

かながわサイエンスサマーに参加(K Y B 史料館)

「かながわサイエンスサマー」は、子供たちに科学技術への興味を喚起し、学習意欲を高めてもらうための、神奈川県が推進する活動です。K Y B 史料館・広報・人事・I R の4部門合同で初参加し、2017年7~8月に合計3回開催しました。小学4~6年生の親子が対象で、パスカルの原理を理解したのち、注射器を使ったシヨベルカーフロント部の工作、ミニシヨベル試乗体験を実施しました。科学の楽しさモノづくりの面白さを体験した子供達や保護者からも好評でした。今後も活動を継続し、K Y B ブランド確立につなげていきたいと考えています。



ミニシヨベル試乗



説明風景



工作風景

安全で働きやすい職場づくり

労働安全衛生

ブラインドシナリオ方式でBCP訓練を実施

2017年6月29日、岐阜北工場で南海トラフ地震発生を想定したブラインドシナリオ方式によるBCP訓練を実施しました。刻一刻と変わる状況に、いかに迅速かつ的確に対応するかが問われました。訓練には社長他の役員も参加し、現地対策本部と本社危機対策総本部を、TV会議システムをつないでの状況報告訓練も並行して実施しました。訓練を通じて明らかになった多くの課題を、今後のBCP体制構築に生かしていきます。



岐阜北工場の様子



本社の様子

労働基準監督署主催

「挟まれ巻き込まれ防止セミナー」への協力

2017年度、弊社岐阜地区を管轄する多治見労働基準監督署管内において、作業者が機械に挟まれたり、巻き込まれる災害が多く発生しており、災害要因として作業手順書の未整備・作業教育の不備等が考えられたため、労働基準監督署により「安全作業マニュアル作成セミナー」が7月5日(水)に開催されました。このセミナーの実践版として、岐阜南工場において「挟まれ巻き込まれ防止セミナー」が8月8日(火)に開催され、多治見労働基準監督署管内企業25社31名の方々が参加されました。岐阜南工場の安全衛生の取り組みの説明、見学、安全体感道場にて、作業手順書や機械設備への安全対策の実例を目で見て、肌で感じて頂きました。岐阜南工場では、このセミナーをきっかけに、今後、近隣企業様との情報交換を活発に行い、地域一体となった安全衛生活動を推進していきたいと思っております。



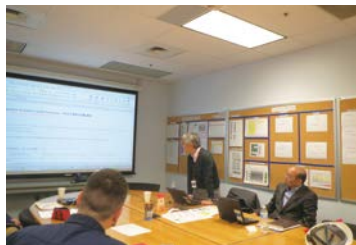
安全で働きやすい職場づくり

労働災害ゼロを目指して

2012年度から「安全はすべてに優先」をスローガンに掲げ、全社一丸となって活動を行ってまいりました。安全担当役員を委員長とした全社の「環境・安全委員会」を中心に、各事業所の「安全衛生委員会」が中核となって具体的な活動を行っております。2017年度は前年度国内で実施してきた諸対策「安全監査」「リスクアセスメント」「止める・呼ぶ・待つ」「繰り返し安全教育」などを海外生産拠点工場へも展開してまいりました。しかしながら2017年度においては2016年度と比較し、労災件数が増加してはいるものの、重篤な災害は発生しておりません。今後も労災ゼロに向け継続して活動を行ってまいります。



ブラジル工場 (KMB) での安全監査



アメリカ工場 (KAC) での安全監査

労働災害件数・度数率・強度率

